

## 人間国宝のプロフィール

前 史雄(まえ ふみお)  
1940年(昭和15年)輪島生まれ  
重要無形文化財「沈金」保持者



金沢美術工芸大学(日本画専攻)卒業後、中学校や高校で美術教諭を勤めた。1968年(昭和43年)日本伝統工芸展に初入選し、その後、入選・受賞を重ねた。

ノミの刃先に独自の工夫をこらして生み出した精密な沈金技法と、日本画で培った絵画力を融合させた作品を発表。観る者に静かで奥深い印象を与える作風が特徴的である。

小森 邦衛(こもり くにえ)  
1945年(昭和20年)輪島生まれ  
重要無形文化財「髹漆」保持者



樽見幸作(たるみこうさく)氏に沈金を学んだ後、石川県立輪島漆芸技術研修所で沈金と髹漆(きゅうしつ)技術を修得した。1977年(昭和52年)日本伝統工芸展に初入選し、その後、入選・受賞を重ねた。

竹を編んで成形する籃胎(らんたい)、アテの曲輪(まげわ)を組み合わせた曲輪造(まげわづくり)を用いて重箱、盆などを造形。これに黒・朱・弁柄などの漆でぼかし塗りや塗り分けなどを行い、造形と装飾の緊密な関係性を示す作品を手掛ける。近代的で格調高い作品世界を追及する。

山岸 一男(やまぎし かずお)  
1954年(昭和29年)輪島生まれ  
重要無形文化財「沈金」保持者



福光文次郎(ふくみつぶんじろう)氏に沈金を学んだ後、石川県立輪島漆芸技術研修所で沈金技術を修得した。1976年(昭和51年)日本伝統工芸展に初入選し、その後、入選・受賞を重ねた。

ノミで文様を彫った彫り溝に彩漆(いろうるし)や金粉などを埋めて研ぎ出す象嵌(ぞうがん)という技法を得意とする。高い技術力により、自然から想起されたモチーフを独自の意匠構成で表現している。